



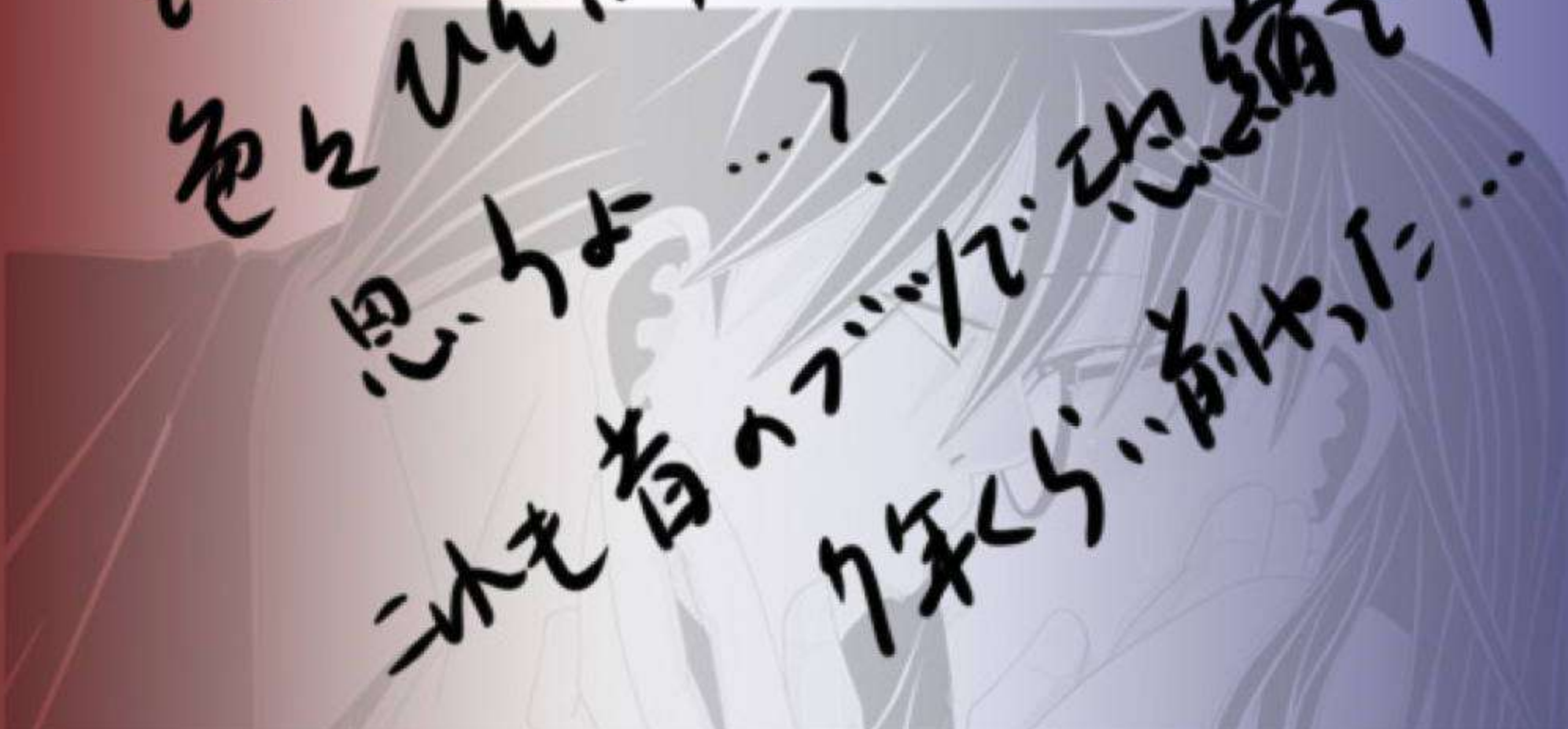
芥辺さんと佐隈さんの昔のお絵描き



おれは、何ぞいok!、2分  
 といふ...



思ふよ...?   
 泣き首の、...?   
 笑ふ、...?   
 ...





さくまさん  
さすがに  
今回のミスは  
笑えない

悪魔に  
気を許すなど  
何度言ったら  
分かるんだ



という事で  
お仕置き

は？



おしおきつて  
アクタベさ…

!



ん？

何これ、薬？  
頭クラクラ  
する…



すみません…

どうやら君は相当  
痛い目に遭わないと  
分からないらしいな



...ん

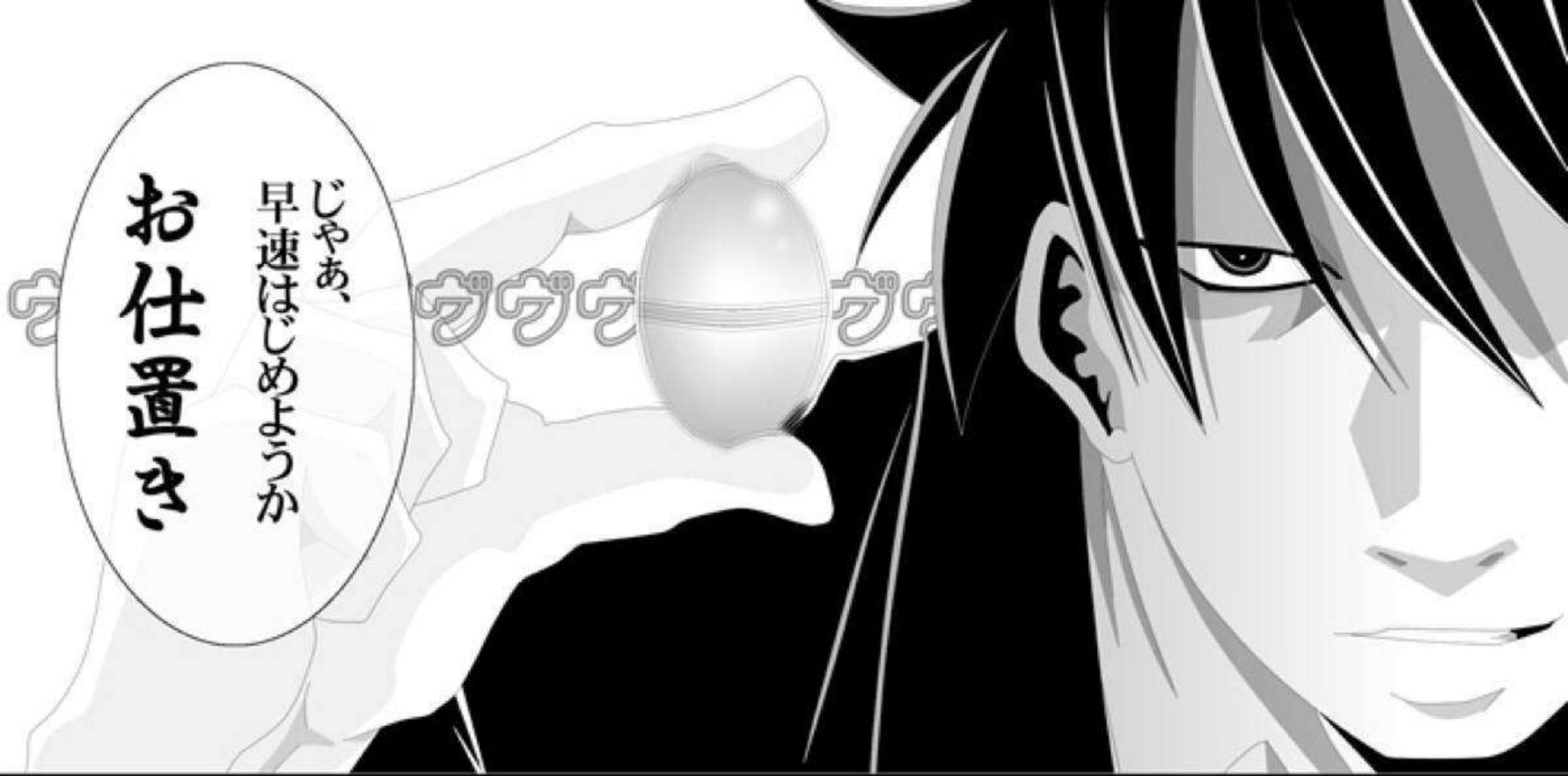
なつ...

にいね...何で...?

ふん...ふん...な...

やっと気付いた

あ...  
アクタバさん...



お仕置き

じゃあ、早速はじめようか



なか  
腔には入れない、だからあの変態悪魔にもばれやしない



んあ  
あつ

そっつ…  
そこ駄目え…っ！

安心しろ



やだやだっ、  
それ駄目  
アクタバさんっ！

そんなのしたら  
変になっちやうっ！



ん……ふう

……あ……  
また頭……が  
しび……れて……

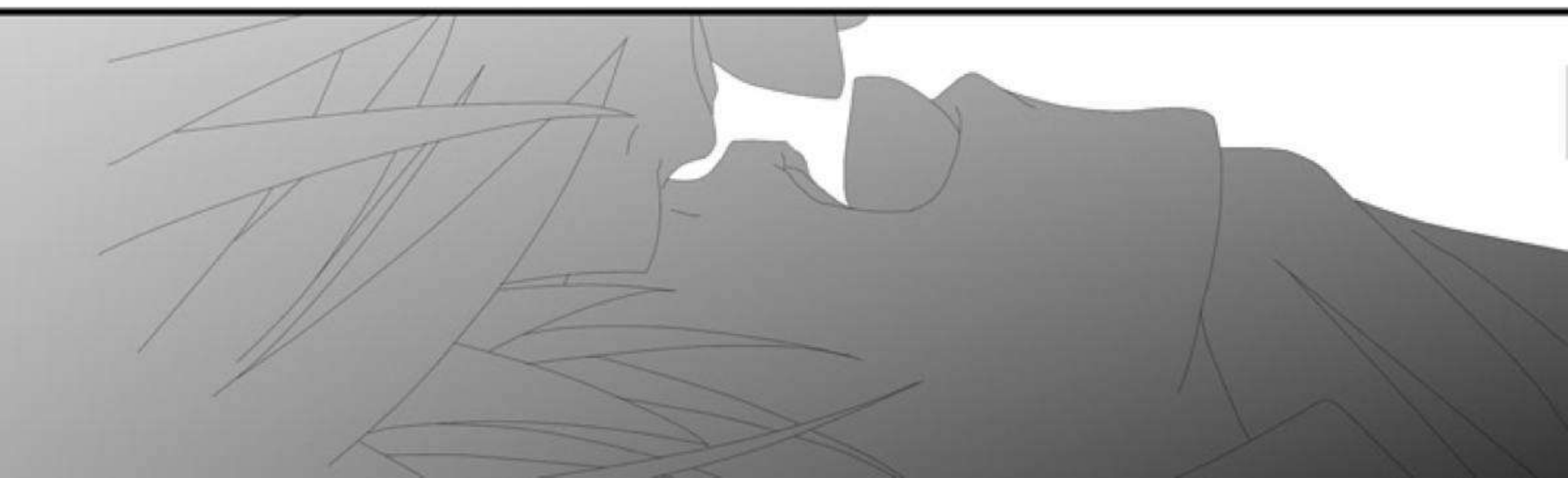


さくまさん  
イキ……どう……？

そっ……んなの  
わかん……ない……いつ



もう……だめ……





どうですか？

幸か不幸かその後佐隈さんのミスがちょっぴり減りました

この男の自分に対する執着心を観察すると  
自分はきっとこの男と同じ道を辿るのだ  
そう思わざるをえなかった  
そしてそこには複雑な感情や、  
深く入り組んだ理由など無い、  
ただそう成るべくしてなった  
それを認識してしまった途端、  
あらゆる事象を受け入れる事が出来た



トラウマに苛まれるはずの行為にも  
不思議と嫌悪感を抱く事も無かった  
ああ、これが、  
己が欠落した人間と言われる所以か、  
そう思いつつ、ならばこの男の足りない  
何かとは一体何なんだろうか、  
最近はそんな事を考えるようになっていた



新たに気付いた事といえば

自分が想像以上に快楽に貪欲だという事

上司はけっして私に挿入しないという事

そして

自分は既にこの男の歩む道に足を踏み入れていた

という事だった

出会って契約を交わしたその時点で

自分の道は既に決まっていたのだ

とりあえずこの  
十回イッてみようか

自分でこの  
広げて見せろよ

すげーね、おんさまさん  
お仕置きして聞いただけで  
ま■こぐちよぐちよだよ

だめっ、だめええっ！  
アクタバさんこそ、お、  
イッちやう、すげーイッちやう  
あああああっ、はっ…ちやう

いやあ！  
いやあああああ！  
もうイッてるっ  
イッてるのをおお！

そうだな、  
じゃあ、あと九回  
イッてみようか、

何かが欠落している人間なのだと言われた

けっして幸せになれない運命を背負うのだと言われた

だから、試してみたかったのだ





すげえな…  
ベルゼブブが  
涎垂らして  
羨ましがる光景だ

あゝ  
背中に硬いのが…  
アクタベさんのが  
当たってる…



あゝ  
ア…クタベさんは…

？

しかし逃げ道は用意されていた



お…ねがい、  
もっ…

あゝ  
もう、だめなのっ、アクタベさん  
見ないでええっ！  
見ちゃいやあああああああ  
あああああああああっ！

あゝ  
駄目、さくまさん  
これ、お仕置きって  
分かってる？

きっとこれが最後の分岐点

二度と引き返す事は出来ない

この男ははこうしてわずかな分かれ道を


今まで残してくれていたのだ

だから、

だから私は試してみたかったのだ



こんなになつてるのに



し…なくても…  
平気…なんですか…??



…あ…

ク…ダブ…キーン…?

こうなる事が分かっていて、私は試したかったのだ

知りたかった

見定めたかった

この男に付いて行く決意を確固たるものにしたかった

だから私は試してみたかったのだ

その単純過ぎる畏に飛び込む事を







おらこへして可愛だよ、  
おへおへ

いいねえ、その顔

でも、  
まだ挿れてあげない

